

■現行計画の体系

分野別の目標	基本的な方向
1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出	(1) 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ
	(2) 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コー
	(3) 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅
	(4) まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築
2 まちあるきや交流のための環境づくり	(1) 安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進
	(2) 区内の回遊性を向上させる誘導の仕組みづくり
	(3) 区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり
	(4) 文の京の魅力を活かすイベントの推進
	(5) MICEの誘致(アフターコンベンションの充実と誘致)
	(6) 区民生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり
3 観光まちづくりのための情報発信	(1) 「文京区」の知名度向上へ向けた情報発信の強化
	(2) ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進
	(3) メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR
	(4) 情報通信技術を活用した情報発信の推進
4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり	(1) 文の京の魅力を伝える人材等の育成
	(2) 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用
	(3) 文の京全体としてのホスピタリティの醸成
	(4) さまざまな主体が連携して取り組む体制づくり

■新しい体系における課題認識(案)

概要
区の魅力や個性を創出し、広く周知する
歴史・文学という固定化された区のイメージを再検証する
区に来訪する人の区内での滞留・回遊を促す
商業者などと連携して観光振興を進める
来訪者・観光客のニーズを把握し、効果的な取り組みを行う
緊急事態への対応、バリアフリー化を進める
住民の生活に対して無理のないまちあるき観光のあり方を考える

○現行計画における4つの目標を「手段」ととらえなおし、新しい計画ではそれによって達成される目標を「魅力・個性の創出」「来訪の促進」「持続可能な観光まちづくり」とし、発掘・活用・創出、環境づくり、情報発信、人材育成・体制づくりを分散した。  
○新しい計画では、新たに観光客のニーズ把握や市内事業者との連携を基本的な方向性に盛り込みました。

■新しい体系(案)

分野別の目標／基本的な方向	分科会での主なご意見	現行計画との対照
1 観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出		
(1) 区の魅力や個性につながる新たな資源の発掘	○何に価値があるのか、地元の人でも気付かないことがあるので、どのように外の目線を入れるのか、よそ者、若者の複数の目線を向けないといけない。 ○住民にとって当たり前のものが魅力的に映るので、住民の「ふつう」を見直すべきだ。 ○産業や坂道など、区内に集積するコンテンツを整理・分析することも必要だ。 ○発掘しすぎず、触れられないもの(アンタッチャブル)も残しておくことで奥深い魅力が出るのではないか。	1-(1)・(2)
(2) 文の京ならではの魅力向上・新たなストーリーの展開	○特に外国人は、自分の国や生い立ちに関係する事柄には反応が変わる。観光者が自分とのつながりを感じられるようなポイントのあるストーリー性を埋め込めるとよい。	1-(3)
(3) 区内の回遊性を向上させる誘導の環境づくり	○観光スポットがあってもどのようにして行けばよいか、その説明が意外とどのパンフレットにもない。	2-(2)
(4) 文京区の魅力や個性を伝える仕組みづくり	○食べ物のマップは評判がよい。ほかの観光資源をマップにしてもよいのではないか。	2-(4) 4-(1)
2 情報の収集・活用による来訪の促進		
(1) 地域内外における文京区の観光ニーズの把握	○どのような組み合わせで周遊しているのか、意識しながらマップづくりや情報発信をする必要がある。 ○文京区は外からどう見られているかについての調査やそれを体験することは重要である。	3-(2)
(2) 文京区の地域ブランド力向上	○有名な飲食店はあるが、名物はない。一押しコンテンツがない。 ○シティセールスのキャッチフレーズを考えてもよいのではないか。 ○区内に観光資源は多いが、文京区という名前と結びついていない。	1-(4)
(3) 効果的な双方向の観光情報発信	○ICTを活用した情報発信を検討する。	3-(1)・(3)・(4)
(4) 活気ある交流のための仕組みづくり	○東京ドームには年間約 3,500 万人が来場するが、そのまま車や地下鉄、JRに乗って帰り、外に出てこない。 ○区内大学のコンベンションの来訪者を区内に誘導する仕組みがあ	2-(5) 4-(4)
3 持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり		
1 観光を通じた地域内外のネットワーク環境の構築	○区内の飲食店等が観光客を引き込もうという商売気がない。	2-(3) 4-(4)
2 安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進	○緊急事態があったときに対応策、障害を持った方々が、車いす等で安心して観光地を回るためのバリアフリーは大切だ。	2-(1) 2-(6)
3 観光まちづくりにおけるホスピタリティの醸成	○まちあるき観光は生活する上では迷惑に感じることもある。住民と観光客が共存できる観光振興が望ましい。 ○観光振興の効果を住民が実感できることが大事だろう。	4-(2) 4-(3)